

本会議における 議案質疑

今定例会では延べ17名の議員が質疑を行いました。
採決の際、討論を行った議案には「**討論あり**」と表示し、
その内容は8ページに掲載しました。

議案第49号

令和4年度一般会計歳入歳出決算認定

初雁自由政令会 | 川越志政会 | 無所属 | 無所属 | 日本共産党
政策フォーラム

討論あり

問 市政方針の令和4年度事業進捗に対する市長の見解は。

答 新型コロナウイルス感染症対策とプレミアム付電子商品券発行等、社会経済活動の両立に向けてしっかり取り組んだ。また子どもの居場所の開設、本丸御殿周辺の広場整備、グリーンツーリズム拠点施設整備等の各事業を進める等子ども・子育て、産業等さまざまな分野において一定の成果を残し、四つの川越づくりの推進を図れた。

問 教育行政方針の令和4年度事業進捗の教育長の見解は。

答 周期的な感染拡大への備えを怠ることなく、基本的感染防止対策を徹底し、教育活動の機会の確保、学びの保障に努めた。多くの施策を展開し学校教育、社会教育の充実と発展に努め、令和4年度教育行政方針の各種施策はおおむね順調に取り組むことができたと思う。

問 令和4年度決算の特徴をどのように捉えているか伺う。

答 前年度と比較して、歳入決算は、国庫支出金、市債の減等により減少した。歳出決算は、民生費、衛生費、農林水産業費の減等により減少した。

問 予算規模の大きい事業のうち、執行率が低かった事業の不用額について伺う。

答 主な不用額は、特定世帯等臨時特別給付金給付事業での約15億円や予防接種の推進での約6億円である。

問 令和4年度の市財政の健全性等について、市はどのように総括しているか伺う。

答 財政調整基金の当初予算への組み入れが近年恒常化し、不測の事態への対応力に脆弱性が見られることから、持続可能な行財政運営の実現に向けて引き続き取り組む。

問 再開に当たりメリットとデメリットを案内するべき、HPVワクチン接種の副反応も含めた状況について伺う。

答 令和4年度のキャッチアップ接種を含めたHPVワクチンの接種件数は、延べ4108件であった。接種後の症状に関する問い合わせを受け、県内の協力医療機関を案内したケースは令和4年度に1件あったが、予防接種健康被害救済制度の申請等はなかった。

問 災害が増えている。災害時に助けが必要な避難行動要

支援者への個別避難計画作成に向けた取り組み状況は。

答 作成方針や推進体制などについて検討し、福祉部等の関係部署と協議を行ってきたところである。引き続き協議を進め、具体的な作成方法等について決定するとともに、個別避難計画作成に係る同意確認を進める。

問 補助金支出の見直しにはガイドラインの策定が必要と考えるが、見直しの取り組み状況を伺う。

答 定期的な検証や見直しを主体的に行うことができる体制を整備するため、今年度を目途に、補助金の基本的な考え方や具体的な指標等を明確にするガイドラインを策定する予定である。

問 財務書類等をより有効に活用するため、事業別や施設別のセグメントによる分析について、昨年の決算質疑では調査研究したいと答えているが、どう取り組んだのか。

答 施設別のセグメント分析ができるように、令和4年度に導入した財務会計システムにおいて、財務書類や固定資産台帳をより有効に活用するための資産情報等の整理を行っている。

問 節電推進事業における省エネエアコン購入費用の助成について伺う。

答 省エネエアコンの購入に対して505件補助金を交付し、家庭から出る二酸化炭素排出量の抑制に一定の効果があったものと考えている。

問 小中学校のトイレ改修工事について、今後の進め方は。

答 令和4年度末で全ての小中学校で1系統目が完了。整備期間短縮化や事業費の課題があるため、今後は工事内容の見直しを含めて検討を行い、計画的な整備に努める。

問 水害ハザードマップの更新の効果について伺う。

答 洪水浸水想定区域や水害時の避難行動などに関する最新情報を反映し、さらなる内容の充実により、市民の防災意識向上に大きな効果があると思う。

問 就任して1年が経過したが、技術職出身の副市長として、どのようなことに重点を置いて職務に当たってきたのか宮本一彦副市長に伺う。

答 政策実現への取り組みとしては、雇用創出効果や企業誘致を進めることが重要であり、駅を中心とした都市基盤整備の推進等を計画的かつ効率的に進めることも重要